

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2490300015
法人名	(有)メーサーサービス
事業所名	グループホーム 楽家生
所在地 (電話番号)	鈴鹿市南玉垣町5470番地 (電話) 059-384-3430
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 19 年 11 月 20 日(火)

【情報提供票より】 (H19年10月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 8 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	12 人	常勤 5人, 非常勤 7人, 常勤換算 8.5人	

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨 造り		
	2 階建ての	階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	69,000 円	その他の経費(月額)	30,000 円
敷 金	(有) 200,000 円 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) 100,000 円 無	有りの場合 償却の有無	(有) / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 円
	夕食	550 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(10 月 31 日現在)

利用者人数	8 名	男性	3 名	女性	5 名
要介護1	1 名	要介護2		4 名	
要介護3	2 名	要介護4		1 名	
要介護5	名	要支援2		名	
年齢	平均	81 歳	最低	71 歳	最高
					93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	おざき内科クリニック
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>国道23号線より100m程入った閑静な住宅街にあり、向かいには由緒ある県指定天然記念物の「地蔵大マツ」があり目を引く。周囲には田畑や大型ショッピングセンターや飲食店が多くあり、生活に便利な所である。ネーミングされている通りに、介護が必要になっても楽に住み慣れた自宅でより快適な生活をしていくことを支援目標に日々取り組んでいる。開設1年3ヶ月、より質の高いサービスを目指して模索しながら取り組んで来たが、ようやく安定を見、更なる向上を目指して意欲的である。</p>
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回が第1回目の評価である。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>① 施設長始め全てのスタッフが意見を出し合い自己評価に取り組んでいる。その中で多くの気づきがあり、今後取り組んでいきたい内容も検討され、すでに取り組まれているものもある。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>自治会代表、地域包括センター、本人、家族、施設職員で構成され、初回の議題として①運営推進会議の位置づけ②活動状況③反省点、留意点④今後の取り組みについて討議されている。地域密着型サービスとして相互理解を図り、地域との連帯を密にし、外部の意見を取り入れることによりサービスの質の確保につながるよう取り組んでいる。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>運営推進会議への出席、面会時の対話から意見や思いを表出できるよう働きかけている。月1回は身体面や生活状況の報告を郵送でされており、家族の安心につながるよう努めている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会が温かく地域住民として受け入れられている。「地蔵様」を自治会、老人会の方が管理されていることから日々交流がある。夏祭りや運動会等も招待を受け参加、又施設で開催した健康教室に地域の方々が参加される等往来する関係にある。お地蔵さんの盗難予防、子供達の避難所としても役に立ちたいと考えている。</p>

2. 評価報告書

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	経営理念としてつくられており、他のサービス(デイサービス・居宅支援)も共有している。玄関に掲示され誰でも目にする事ができる。	○	経営理念を基盤に更にグループホーム独自の理念を検討されることが望ましい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	掲示はしているが、改めて説明していなかったことに自己評価の際気付かれ、その時点で説明している。以後確認を深め、理念実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会が温かく施設を受け入れており運営推進会議への参加、情報提供、夏祭り、運動会等の招待を受け参加している。「地藏様」の管理を自治会、老人会の方がされており日々交流がある。施設での健康教室に地域の方が参加される等、往来する関係がある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全員で取り組んでいる。その中で多くの気付きがあり、今後の取り組みについても検討され、すでに取り組んでいるものもある。評価は今後の取り組みの指針になると捕らえており、改善への意欲がある。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会代表、包括支援センター、家族、本人、事業所職員メンバーで開催されている。利用者や活動状況、反省点、留意点、今後の取り組み等について検討しており、それぞれの立場から貴重な意見が出されており、それらをサービス向上に活かしている。	○	運営推進会議の開催には積極的に取り組み、地域自治会との連携がよいので、今後も運営推進会議を定期的(概ね2ヶ月1回)に開催し、更なるサービスの向上に努めて欲しい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の介護相談員を受け入れており月1回の訪問がある。施設で健康教室を開催し地域の方々の相談に応じたり、介護保険更新手続きを通して連帯に取り組んでいる。包括支援センターとの連帯にも努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回定期的に利用者の身体面・精神面・社会面の状況を手紙様式で報告されている。又面会時は勿論異変のあった時は随時報告している。金銭については、預金が無くなった時点で帳簿のコピーとレシートを貼付し郵送報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時の対話の中から思いを汲み取れるように、又表出して届けるように心掛けでいる。運営推進会議への出席もある。家族会の開催等今後も家族とのコミュニケーションの場を増やしたいと考えている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設当初は異動・離職で混乱があったが、今は安定している。利用者への影響に配慮しながらもデイサービス等との交流は図っていききたい意向がある。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修へ参加しており、内部で報告書を閲覧する方式で共有している。又連絡協議会への出席により研修の機会を得たり、情報交換に努めている。	○	研修参加者からの伝達、勉強会は重要である。職員も順番等により施設見学、外部研修の機会を得るため研修年間計画を立案し実践されることを期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の小規模事業者が集まり(10~13事業所)利用者作成の発表会「おたっしゃ広場」を開催している。事前準備の会議や施設見学、本番を通して交流・勉強会ができお互いサービスの質向上めざし研鑽している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	デイサービス利用から入居になる方が比較的多いのでデイサービス利用時から馴染みの人間関係に努めている。又、お泊りを体験して施設に馴染んで頂いたり入院から入居になる場合は病床訪問し関係づくりに努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	病院や病人ではないという意識で、第2の家族となれるように努めている。人生の先輩であり、敬うべき所も多く教わることも多い。職員の体調が悪いと気遣って下さったり、悩みの相談に答えて下さることもあり、互いに支えあう関係がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の本人・家族の要望、希望をふまえ、入居前の生活スタイルを継続できるよう配慮している。又、日々の生活の中でも希望や意向を把握できるよう努めそれらに答えられるよう支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居前の情報収集分析に基づき、本人や家族の意見を聞き、より良く暮らせるように計画されている。モニタリング後は見直しを反映し作成、家族に報告し意見を頂くようにしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月～6ヶ月位で見直ししている。モニタリングでは一人ひとりの職員が意見を出し合って検討している。又、本人の状態変化や希望・要望があった時は随時見直し、状態に合わせた計画の変更へとつなげている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	好みの美容室に行ったり、他科受診・買物等支援している。今後要望や希望を聞き柔軟な対応をしていきたいと考えている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者総てが協力医療機関が主治医である。月2回の往診、健康相談がある。緊急時も24時間連絡体制があり、家族の安心にもつながっている。ターミナル対応も可能、他科受診支援も柔軟にしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居段階で意向の把握に努めているが入院になったり変化する事も多いので、その都度話し合っている。一人看取りの実績があり、希望があればその都度話し合い方針を共有しながら対応していきたい考えがある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録等個人情報の取り扱いには充分注意している。個人的に話す必要性のある時は居室で行っている。職員の感じ方と利用者の感じ方の相違に留意し声かけ対応に心掛けている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる限り本人のペースに合わせた支援を心掛けている。「買物に行きたい」「美容院に行きたい」等、ニーズがあれば柔軟に対応している。食事の取り方にもその人のペースがあり、急がせず強制せず、その人のペースを大切にしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と共に盛りつけ、後片付け等されている。利用者の積極的な参加がみられる。誕生会にはその人が一番食べたいものをメニューにしたり、時にはリクエストを取り献立に上げている。スタッフは見守りや声かけはされるが、一緒に食事はされていない。	○	食事は家族で食卓をかこむように、職員も一緒に食事をされることが望ましい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	14:00～16:00の間と時間設定があるが、入浴の順番等は自由である。「2人一緒に入りたい」等の希望や入浴拒否に対しても強制していない。しかし週3回は入れるように働きかけている。夏等、眠前入浴希望時は柔軟に対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事作り、後片付け、下膳の手伝い、お茶入れ、カーテンを締める、プランターの水やり等、その人の能力にあった役割を見出し、必要とされていることを感じて頂ける支援をしている。外出、外食等の機会も作り、気分転換を図っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	向かいにある「地藏松」のお地藏参りは日課のようになっている。ショッピングセンターでの買物、回転寿司等の外食、公園等へよく出かける。月1回は大きな外出計画を立てドライブ等出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	過去利用者の離棟もあったが、なるべく鍵をかけないよう取り組んでいる。入浴時等、見守りが不十分になりがちな時やデイサービス利用者で外出傾向のある方の利用日は玄関を施錠することがある。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	訓練の実績はないが、ぜひやらなければと考えている。連結体制は整備されているが非常災害時の地域の方々との連携協力体制作りも必要と考えている。	○	施設での訓練の実施(夜間想定も含む)や地域の方々の相互協力体制作りについて運営推進会議等で検討されることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日1600キロカロリーを目安に健康維持できるよう摂取支援している。声かけや見守りにより、出来るだけ自己摂取に心がけ、補助食は必要最小限にし、食事を楽しんで摂取して頂けるよう支援している。水分は食事時、おやつ、入浴後等定期的に、その他は自由に飲用できるようにセット、介助している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所が対面式キッチン、食堂兼居室になっている。ダイニングテーブルと椅子、テレビが一台ある。介護ステーションが低いカウンターになっており、コーヒータイムにはくつろげるスペースになっている。床に特徴があり「イグサ」状で温かく滑り止めにもなっている。ベランダを通して光が入り不快音もない。	○	居間・食堂には、いまひとつ利用者同志が話し合う雰囲気の間が感じられない。落ち着いてくつろげる空間づくりを期待したい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	10畳程の広い居室にトイレ・洗面台が設置されている。洋服ダンスや仏壇・冷蔵庫等、使い慣れた品々を持ち込まれ、家族の写真等を飾り1人1人の個性に合った居室になっている。		